

令和7年度 岩手大学 リカレント教育プログラム
地域の文化的基盤
～岩手の歴史と文化を実務するために～

1. 目 的：

先史時代以来、岩手県域には重厚な歴史と文化が形成されてきています。それらを紐解くための資料は各地域に伝承され、貴重な文化資源となっています。

この講座では、県内の各地域を理解するための素材を確認しつつ、それらを文化資源として利用していくための方法などを理解していただくことによって、それぞれの地域の再発見につなげていただきたいと考えています。

2. 主 催：岩手大学

3. 定 員：10 名程度

4. 受講料：6,000 円（資料代など。）

※その他、施設入館料等一部実費負担となります。

※岩手大学の学生・大学院生の受講は無料です。

（但し、施設入館料等一部実費負担あり）

※ご入金方法は、受講をお申込みいただいた方に別途ご連絡を差し上げます。

5. 対象者：広く地域の文化資源の活用に関わっている方。岩手の歴史と文化に興味関心を持っている方。

- ・学校教育関係の方
- ・行政関係の方
- ・文化遺産の案内等に関わっている方
- ・文化遺産と地域の持続的発展について関心を持っている方
- ・学生、大学院生

6. 会 場：岩手大学平泉文化研究センター ほか

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目 18 番 33 号 教育学部 1 号館 1 階

※第 11・12 時は、一関市博物館が会場です。

また、第 4 時は盛岡市志波城古代公園前、第 8 時はもりおか歴史文化館前が集合場所となります。

詳細は、別途受講者の方にご連絡いたします。

※屋外を会場とする第 4 時、第 6 時、第 8 時を受講される際には、汚れる可能性もありますので、靴や服装にご留意ください。

7. 留意事項：全日程の参加が望まれますが、やむを得ない事情等がある場合はこの限りではありません。この場合でも、受講料はお返ししません。

全コマを受講された方には「修了証」を、一部のコマを受講された方には「受講証明証」を発行いたします。

8. 申込方法

受講申込書に必要事項を記載の上、ホームページ (<https://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/community/>) の申込フォームから 8月22日(金) までにお申し込みください。

※締め切り前であっても人数が定員に達し次第締め切らせていただきます。

※やむを得ない事情によって日程を変更する場合もございます。

お問合せ・お申込み

岩手大学地域社会教育推進室(岩手大学研究・地域連携部 研究・地域連携課内)

TEL : 019-621-6492 E-mail : pedagogy@iwate-u.ac.jp

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番34号

参考：受講申込書 一部抜粋

氏 名	所属／職名	生年月日
ふりがな.....		年 月 日
住 所	連絡先	
〒	TEL	
	E-mail	

※個人情報とは当講座の運営のみに利用いたします。

ただし、保健所等からの要請があった場合は情報提供することもありますので予めご了承ください。

応募した動機、本講座で学びたいこと、期待していることをご記入ください。

--

9. カリキュラム

時数	開催日時	内容	講師
1	9月6日(土) 10:20～ 10:30～ 12:10	【開講式】 【講義】 「地域の文化的基盤総論」 地域の所在する文化資源は、どのようにして「資源」として利用が可能となるのか。様々な事例から、地域における文化資源のとらえ方について再確認する。	岩手大学平泉文化研究センター センター長 中村安宏 客員教授 佐藤嘉広
2	9月6日(土) 13:00～14:40	【講義】 「盛岡藩と仙台藩の教育思想」 日本人の識字率の高さは近世の教育によるとされているが、盛岡藩と仙台藩においては、どのような思想に基づいて人材育成を図ったのか。具体例に依りながら比較検討する。	岩手大学平泉文化研究センター センター長 中村安宏
3	9月20日(土) 10:30～12:10	【講義】 「遺跡の価値表現とは～平泉町柳之御所遺跡を例として～」 遺跡の価値をどのように可視的に表現して地域に還元していくのか、奥州藤原氏の政庁柳之御所遺跡を例に、発掘調査から史跡公園に至るまでの検討内容や方法について考える。	岩手大学平泉文化研究センター 客員教授 佐藤嘉広
4	9月20日(土) 14:00～15:40	【演習】 (盛岡市志波城古代公園前集合) 「遺跡の価値表現とは～遺跡修景の課題」 志波城古代公園を見学しながら、復元・整備された遺跡がどのように情報を発信し、来訪者の理解を促しているか意見交換する。	岩手大学平泉文化研究センター 客員教授 佐藤嘉広
5	9月27日(土) 10:30～12:10	【演習】 「民俗芸能記録の実務」 消滅の危機に瀕しつつある民俗芸能を伝承していくための課題は多い。本時は、民俗芸能をどのように記録し伝承につなげていくかの実践について、映像を見ながら意見交換する。	岩手県立博物館 学芸員 川向富貴子
6	9月27日(土) 13:00～15:00	【フィールドワーク】 「岩手大学の書を巡る」 岩手大学上田キャンパスに点在する書(石碑の書や書作品)を巡り、鑑賞や情報収集をしながら、地域理解の素材と方法について考える(雨天時は【講義】に変更)	岩手大学平泉文化研究センター 人文社会科学部准教授 久保田陽子
7	10月11日(土) 10:30～12:10	【講義】 「盛岡の近現代史を読む」 令和7年3月までに刊行された『盛岡市史現代』(通史編、資料編)に依拠して、「日本近現代史のなかの盛岡」について考える。	岩手大学平泉文化研究センター 教育学部講師 宮崎嵩啓
8	10月11日(土) 13:30～15:10	【演習】 (もりおか歴史文化館前集合) 「盛岡の近現代史を歩く」 前時の講義内容をふまえて、実際に盛岡市中心部を散策する(少雨決行)。	岩手大学平泉文化研究センター 教育学部講師 宮崎嵩啓

9	10月25日(土) 10:30～12:10	【講義】 「中国の論語簡牘・韓国の論語木簡・日本の論語木簡——日本人が読んで書いた論語」 『論語』は東アジアの各地で書き継がれ、読み継がれてきた。20世紀以降、昔の人々が竹簡や木簡に記した『論語』が中国・韓国・日本で発見されている。その発見状況について紹介する。	岩手大学平泉文化研究センター 教授 廣瀬薫雄
10	10月25日(土) 13:00～14:40	【演習】 「中国の論語簡牘・韓国の論語木簡・日本の論語木簡——日本人が読んで書いた論語」 『論語』が記された竹簡や木簡を実際に読むことを通じて、『論語』にはどういったことが書かれているかを知るとともに、古代日本人が書いた『論語』にはどういう特徴があるかを考える。	岩手大学平泉文化研究センター 教授 廣瀬薫雄
11	11月8日(土) 10:30～12:10	【講義】 (会場：一関市博物館) 「和算～近世人の数学的教養」 県南地方を中心に、近世の算額が広く分布している。それらは、どのような歴史的背景をもって製作されたのか。また、その現代的意義を探究する。	一関市博物館 主任学芸員 相馬美貴子
12	11月8日(土) 13:00～14:40	【演習】 (会場：一関市博物館) 「和算～近世人の数学的教養」 実際に和算の問題を解きながら、地域の文化資源としての意義を考える。	一関市博物館 主任学芸員 相馬美貴子
13	11月15日(土) 10:30～12:10	【講義】 「地域と伝説」 三つ石と鬼の手形の伝説や金売吉次の伝説を例に、地域理解の素材および文化資源としての伝説について考える	岩手大学平泉文化研究センター 教育学部准教授 船越亮佑
14	11月15日(土) 13:00～15:30	【総合演習】 「受講者が再認識した地域の文化的基盤」 受講内容をもとに、各受講者が再認識した文化的基盤について、文化資源としての活用方法などを意見交換する。	岩手大学平泉文化研究センター 客員教授 佐藤嘉広 ほか
	15:40	【閉講式】	センター長 中村安宏